

豊田章男会長が「不正根絶は無理だと思う」発言

この意味は、日本の自動車業界の横並び体質をさりげなく言っているのか

ChatGPT:

とても鋭いご指摘です。

豊田章男会長の「不正根絶は無理だと思う」という発言（※2024 年 1 月、認証不正問題への言及）は、表面的には“人間のすることに完璧はない”という一般論として受け取れますが、背景を読み解くと、日本の自動車業界の構造的な「横並び・談合体質」を暗に認めた発言とも解釈できます。

この発言の文脈と含意

表向きの意味（一般論としての解釈）:

- 人間が関わる限り「完全なゼロリスク」はあり得ない。
- 不正や間違いはゼロにはできないが、改善の努力は続けるべき。

しかし「業界構造の裏読み」ではこうも読める:

豊田会長の言葉	暗に意味している可能性
「不正はゼロにできない」	業界全体が不正に依存せざるを得ない構造がある（認証・検査・データ改ざん）
「無理だと思う」	建前と現実の乖離、または“不文律”を容認している暗黙の了解がある
発言の場が公ではなく“会見”	正式な制度批判ではなく、“本音”をにじませた発言

過去の不正と「横並び」

認証不正の事例:

- ダイハツ: 衝突安全試験データ偽装 (2023 年)
- トヨタ車体・日野・豊田自動織機・マツダ・ヤマハなども続々判明
- これらはすべて「型式認証」に関わるもので、業界横断的な構造的問題。

なぜ横並びが不正を生む？

- 型式認証が国内独自で複雑かつ非効率（例: EU や米国より保守的）

- スケジュールや開発競争において「他社がやってるなら…」の心理
- 下請け・系列への圧力、成果主義、納期至上主義

🧠 豊田章男会長は「分かっている人」

- 自ら社内の「閉鎖性」「忤度」「報告の上がらなさ」などを改革してきた人物
- 2010年の米リコール問題以降、会長自らメディア対応・議会証言なども経験し、世界のルールと日本の業界体質のギャップに最も精通
- 今回の発言は、“改革の途中で生まれる本音”でもあり、ある種のあきらめと警鐘の両面を含んでいる

💡 要約: この発言の深層

「不正根絶は無理だと思う」＝ 業界全体が競争と形式主義に追われ、本来の目的(安全・環境・ユーザー利益)から逸れていることへの警告。

それと同時に、「すべての責任を現場に押し付けるのは違う。構造を変えなければ再発する」とも暗に言っている。

本人も関わっているからか

ChatGPT:

はい、その可能性は極めて高いです。

豊田章男会長が「不正根絶は無理だと思う」と語った背景には、自分自身(トヨタ本体)も当事者であるという現実と、それに伴う重たい自責・限界認識があると考えられます。

🔍 豊田章男氏も「無関係ではない」3つの意味

① トヨタグループ内でも「不正」が発生している

2022～2024年にかけての型式認証不正問題では、以下のようにトヨタグループ全体が不正の当事者でした:

- ダイハツ工業(トヨタ傘下): 衝突試験など大規模なデータ不正
- 日野自動車(トヨタ子会社): 排出ガスと燃費試験で不正
- 豊田自動織機(トヨタ創業会社): 産業用エンジンの排ガス不正
- トヨタ車体(グループ会社): 塗装耐久試験のデータねつ造

→ つまり、「自分の目が届く範囲」で深刻な不正が多発していた。

② 自分の改革が「限界にぶつかっている」実感

豊田会長は社長時代(2009～2023)に以下のような改革を実施しました:

- カイゼン主義を越えた「原点回帰」: もっといいクルマづくり
- トヨタの“村社会”文化からの脱却(失敗共有、若手登用)
- e-Palette や EV シフトなど新規ビジネス展開
- 会長に退いた後もグループ全体を統括

それでも、**形式主義・数値主義・横並び体質**に起因する不正は止まらなかった。

→ だからこそ、「完全に根絶するのは難しい」という本音が漏れた。

③ 「一部の現場の問題」とは言えない

本来、企業トップは「不正が起きた＝組織の責任」として受け止めるべき立場。

しかし日本企業の多くは、問題を**現場や担当部署の責任**に切り分ける傾向があります。

豊田会長はそこを踏まえて、あえて

「誰かだけが悪いのではなく、構造そのものが不正を生み出している」

→ だから**完全根絶は理論上も難しい**

と発言したことで、**責任の所在を現場だけに押し付けない姿勢**を示したと見ることができます。



結論: だからこそ「業界体質の暗黙了解」にも触れている

豊田会長のこの発言は、「不正はなくなる」と投げやりに言っているのではなく、
自らも長年この構造の内部にいたことを理解した上での、**重い“内部告発的な警告”**です。

つまり、

- 業界が長年かけて作ってきた“安全な裏ルール”や“横並び習慣”
- それに甘えて、目標や納期を守るためにデータを“整える”文化
- そして、自分自身もそれを変えきれなかった自覚

これらを含めた発言と考えると、その真意が非常に深く見えてきます。